

【第25回、BP4周年記念フォーラム開催案内】

今こそ、“親子の絆”の大切さを深く認識しよう！

本会代表(精神科医) 原田 正文

梅雨が明け夏真っ盛りですが、みなさまにはお変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、本会は来る12月20日(土)に第25回フォーラムを開催します。今回のタイトルは『親子の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた!”(愛称:BP)発表4周年記念フォーラム』です。

このフォーラムの趣旨は以下の3つです。

- ① 子ども虐待予防の真髄に迫るBPプログラムを広く知っていただくこと
- ② 子ども虐待や不登校・引きこもりなどの大きな原因と考えられる「愛着障害」が広がる現代日本において、親子の絆づくりの意義を深く理解すること
- ③ BPファシリテーター並びにNPファシリテーターの研鑽の場を提供すること

子ども虐待を根元で止めたい！

少子超高齢社会が進む中、国を挙げて子育て支援、子ども虐待予防に取り組んでいますが、残念ながら子ども虐待件数は増える一方です。子ども虐待の原因はいろいろあると思いますが、親子の絆の不十分さ、すなわち親子の愛着障害が根底にあると考えています。本誌2012年1月号で説明しましたように、親子の愛着形成は単に母親が赤ちゃんに母乳を与えるから子が親に愛着をもつという受け身のものではなく、子どもの方からも積極的に親に働きかけ親子の相互作用により親子の絆が深まり、愛着(親子の絆)が形成されるのです。ところが、育児の経験がないままに親になる現代日本では、愛着形成がうまくいっていないことが、子ども虐待の急増からも想像できます。



能面のような赤ちゃんの登場

「能面のような赤ちゃんの登場」が、1990年頃に問題になったことがありました。1970年代から幼児期からの人格形成が最も大切であるという考えのもと、「幼児教室」「母親教室」などの家庭教育振興事業を推進してきた日立家庭教育研究所の方が、最近「能面のような赤ちゃん」が来るということを驚きを持って報告されました。そのようなことは、かつてなかったことで、核家族化の中で赤ちゃんに触ったこともない親による養育がもたらしたものと危惧していました。

「能面のような赤ちゃん」という表現もすっかり忘れていたのですが、今年に入ってから、BPの報告で久しぶりに「能面のような赤ちゃん」という表現に出会いました。考えてみれば、けっこう増えているはずだがなあ、と思います。

日立家庭教育研究所での幼児教室は、2～3歳

の子どもと親を対象に週1回、1年間のプログラムですが、能面のような無表情の子どもの回復にはかなりの時間とエネルギーがかかったと報告されていました。一方、今回のBPに参加した能面のように表情のない赤ちゃんですが、その母親は初回は赤ちゃんを目を合わすこともなく、「私は育児に向いていない・・・」とポツリと話していたそうです。4か月児と月齢がまだ早かったこともあったのか、また他の参加者や赤ちゃんとの交流もあり、この赤ちゃんはBPの4回のプログラムの中で、はっきりと感情や意志などを表すようになりました。母親も他のお母さんの育児を見て、「私も真似てみよう」と言えるまで、育児に自信がついたようでした。出生早期の親子の絆づくりを目的にしたBPの強みを実感しました。

親子の絆の意味をもっと深く理解しよう！

次ページに12月20日(土)のフォーラムの概要を示しています。

午前の全体会では、まず私がこの4年間のBPの取り組みについて報告を行います。そのあと、児童精神科医でエリクソンの発達論の第一人者であり、本会初代代表の服部祥子先生に「子どもが育つみちすじ」と題して、人格発達の中での“親子の絆づくり”の意義について、より専門的なお話しをしていただきます。ぜひお聞きいただき、BPがめざすものの本質を学ぶ機会としていただきたいと思います。

午後からは3つの分科会に分かれます。

第1分科会は、広くBPプログラムを知っていただくために企画しました。BPのめざすものや基本構造、すすめ方などの解説のあと、各地で実践を多数行っているBPファシリテーターに実践例をシンポジウム形式で話していただきます。みなさんの市町でもBPを取り入れたいと考えている方、BPとはどのようなプログラムでどのように実施されているのかを知りたい方、実践者の生の声をぜひお聞きください。きっと何かヒントになる話をお聞きいただければと思います。

第2分科会は、BPファシリテーターの研修会です。BPファシリテーター養成講座の受講生は、今年度から登録更新制度が始まり、受講してから3年ごとに登録更新が必要になります。更新の際にはリフレッシュ研修を受けていただくこととなります。この第2分科会は、そのリフレッシュ研修会を兼ねていますので、受講後3年を経過している方はぜひ受けてください。また、BPプログラムは進化していますので、これまで一度も研修会に参加していない方はぜひご参加ください。

第3分科会は、NPファシリテーターの研修会

時代に見合ったイノベーションを！

です。受講後2年間実施していない方、また実施後2年以上経っている方はぜひご参加ください。この分科会は、NPのリフレッシュ研修会を兼ねています。

フォーラムのちらしを同封しています。詳細はちらしをご覧ください。お申し込みは、①本会ホームページからEメールで、または ②ちらし裏面にある申込書にご記入の上 FAXで、①②いずれかの方法でお申し込みください。しめきりは12月6日(土)です。お知り合いの方にもぜひご紹介ください。みなさんのご参加をお待ちしています。

フォーラムに向けた新たな企画

KKIでは最近では2年に1回というペースでフォーラムを開催しています。そして、フォーラムを一つの節目にしてイノベーションをはかってきました。今回は、以下の3つの新しい企画を進めています。

- ① B Pファシリテーター養成講座受講生の登録更新制度の新設 更新制度の新設
- ② B Pプログラムのピア・サポート体制の確立
- ③ 時代の急激な変化に対応したホームページの新たな活用

①の登録更新制度につきましては何度かお知らせしてきましたが、B Pファシリテーター養成講座を受講された方には、8月末に詳しい案内を郵送させていただきます。

②の「ピア・サポート体制の確立」については、本誌12ページに詳しく説明しています。ファシリテーター同士で支え合える体制を作っていきたいと考えていますので、多くの方にピア・サポーターになっていただきたいと願っています。

インターネットを使いこなす

KKIの正式名はご存知のとおり「NPO法人こころの子育てインターねっと関西」ですが、本会を設立した1995年当時は、インターネットという言葉はほとんど知られていませんでした。私は、当時偶然、ニュース解説で「これから会社などにあるパソコンのネットワークをつなぐインターネットというものができる」という話を聞きました。その時、我々が意図している「各市町単位の子育てネットワークをつなぐ役割は、インターネットと同じだ！」と気づきました。そんなことがあり、「こころの子育てインターねっと関西」という団体名が生まれました。しかし、インターネットがこのように広がる中で、KKIの名前はインターネット上で何かしている団体だろう、と誤解されることが多く苦慮しています。



とは言え、現在では「インターネット上に無ければ、世の中に無いもの」という理解が進む中で、これまでほとんど活用してきませんでしたインターネットを上手に使いこなしていきたいと考えています。そして、当面は

- ① B Pプログラムの開催日程をGoogleカレンダーで表示する
 - ② ファシリテーターのみなさんへ一斉送信できるファシリテーター専用サイトを設ける
 - ③ B Pプログラムの参加者やファシリテーター、主催者などが書き込めるFacebookを開設する
- 以上3つのことから始めたいと考えています。
①以外はまだ機能していませんが、8月末を目途に活用できるようにします。ぜひご利用いただき、B Pプログラムを広めていきたいと考えています。

KKI第25回フォーラム 子ども虐待予防の真髄に迫る！

— B Pプログラム発表4周年記念フォーラム —

日時：2014年12月20日(土) 10:30~16:30

場所：大阪人間科学大学 庄屋学舎

第I部 全体会 (10:30~12:30)

1. 報告『B Pプログラム発表後、4年間の実践報告と今後～子ども虐待予防の真髄に迫る！～』
原田 正文 大阪人間科学大学 副学長(精神科医)
2. 講演 『子どもが育つみちすじ～生きる力の火種の尊さ～』
服部祥子氏 頌栄短期大学学長(精神科医)

第II部 分科会 (13:30~16:30)

1. 「親子の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた！”(愛称：B Pプログラム)を知ろう！」
山野則子(大阪府立大学教授)ほか 各地のB Pプログラムの実践報告者
2. B Pファシリテータースキルアップ講座 最新情報の提供：リフレッシュ講習会を兼ねています
B Pプロジェクト・メンバー
3. NPファシリテータースキルアップ講座 :リフレッシュ講習会を兼ねています
中川千恵美(大阪人間科学大学教授、NPトレーナー)ほか